

【学生によるESD学習支援活動】 奈良市立都跡小学校 野外活動支援 報告書

理科教育専修 1 回生 假屋 美有

1. 実施日 令和元年9月26日(木) 18:00~21:30
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹(大学院生)
市川侑季、假屋美有、柳川莉沙(学部生)
石崎桃花、瀧上真奈(奈良ユネスコ協会青年部)
奈良市立都跡小学校第5学年児童 約50名、引率教員 約15名

4. 活動支援内容

令和元年9月26日(木)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立都跡小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生4名、奈良ユネスコ協会青年部2名がこの支援にあたった。主に夕方頃から行われたキャンプファイアーの支援、ファイアーキーパー、スタント等の活動を行った。

今回の野外活動支援について以下の2点で振り返る。第1に生徒と積極的に関わる意識を持つことについて、第2に自ら挑戦することの大切さについてである。

第1の生徒と積極的に関わる意識を持つことについてである。今回の野外活動支援は野外炊飯等がなかったため、生徒との交流があまりないままキャンプファイアーの支援を行っていた。野外活動は単に楽しむためのものだけではなく、人と人との絆やつながりがとても重要となってくる。そのため、今回のような場合には特に児童への声掛けを積極的に行い、距離が縮まるように心がけることが必要であると感じた。

第2の自ら挑戦することの大切さについてである。今回の参加者は野外活動支援の経験者が多かったため、各々が新たな仕事を任される機会があった。戸惑いの中、お互いに相談や話し合いを重ね、何度も練習したりと準備をしっかりと行っていた。しかし、成功を願う反面、うまくいかずにもどかしい思いをしたこともしばしばあった。その一つに、自分たちで行ったスタントにて、準備はできていたもの子どもたちへ声が届かず、ルールの説明をスムーズに行うことができないことがあった。悔いの残る場面もあるが、失敗を振り返り、反省し、次への課題としたい。この繰り返しがより良い活動への道になるのではないかと感じる。そのためには失敗を恐れず、常に挑戦する姿勢を持ち続けることが大切である。

今回の活動では、多くの反省があった。しかし、そこからの成長に大きく繋がるものであったのではないかと感じている。失敗を失敗のまま終わらせるのではなく、次の成功への糧とする。そういった新たな目標をこの野外活動支援で学ぶことができた。今回の活動で得られたそれぞれの思いを、将来の「教員」という夢に向けて、また、一人の人間として、さらに成長していけるよう経験を積み、自らを培っていきたいと思う。



キャンプファイアーの様子